

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4270800339
法人名	医療法人 陽迎堂
事業所名	グループホーム たけべⅡ
所在地 (電話番号)	長崎県松浦市今福町北免2091-1 (電話) 0956-74-0128

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年2月1日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤	人, 常勤換算7人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築/改築
建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,700 円	その他の経費(月額)	光熱費 1日 100 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 310 円
	夕食	280 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	6 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	86.2 歳	最低	81 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武部病院、森歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くから地域の中の病院として診療を続けていた母体の医療機関の院長が、地域で暮らす為にという思いを込めて作りあげたホームで、24時間医療面でのバックアップ体制が整っている。院長は朝・夕ホーム利用者の状態を観察しており、管理栄養士による献立を含む栄養管理の取り組みも行われ、安心して預けられるホームとなっている。非常災害時の地域の連絡網も作成され、地域との連携も調べられ何時でも協力を得られる状態にある。同法人のグループホームが階下にあり、お互いの協力体制もあり職員の笑顔の多いホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目である市との関わりについては、運営推進会議も含めまだ積極的に行われているとは言い難い。運営推進会議については、概ね段取り等の準備は行われていて近い時期に開催できるまでになっている。栄養管理については母体病院の管理栄養士から定期的に献立チェックを受けアドバイスも頂いている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目について説明は行わなかったが、職員に記入してもらった後皆で話し合いを行った。項目の理解が難しく職員からの積極的な意見は得られなかったが、評価を受ける事で、新たな気づきや行っているケアの振り返りにつながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は準備段階で、開催に至っていない。第1回目の開催に向け、取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や公共機関の苦情対応窓口は契約時に説明を行っており、家族の日々の来訪時も利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納帳等の報告を行っており、「何かあればいつでも言ってください」と繰り返し伝え、家族が話しやすい雰囲気作りを行っている。家族から出た意見に対しては職員会議で検討を行い、運営や日々のケアに活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りへの参加や作品を展示会に出展したり、中・高生の体験学習の受け入れ、病院や他事業と合同のクリスマス会への地域住人の参加も得られ、途中の住人に柿や実った果物を頂く等の関係も自然と作れている。院長の地域の寄り合いへの参加や職員が地域の掃除に参加しているが利用者参加には至っていない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表の院長が地域の中にホームがなかった事や、認知症の方が地域の中で共同で暮らす為にはどうすれば良いかという思いでホームを開設し「家庭的でゆったりした暮らし、安らぎのある暮らし、あなたの健康みんなで守る」を理念として作りあげた。地域の中で生活が根底にあるが、地域密着型サービスの役割を反映させた理念として「地域での暮らし」を、解かり易い言葉で理念の中に盛り込む為の会議を予定していたが開催に至っていない。	○	理念の中に地域で暮らし続けることを支援するという思いを言葉で表現し付け加える等、理事長や職員も含め話し合いを行い検討される考えがあり、理念の根底にある思いが、より地域に密着した理念として反映される事に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し朝の申し送り時に唱和を行っているが、昼休みに私語が多くなったり声が高くなる事があり、月1回のカンファレンスや日々のケアの現場で理念に照らし合わせ注意したり、昼休み時間に声かけについて質問を受けたとき等命令口調にならない、大きな声を出さない、ゆっくりを意識してと主任が中心となり指導を行っており、必要時には管理者より注意・指導を行っている。	○	毎日の理念の唱和を継続すると共に、毎月のカンファレンスの中で日々のケアを理念に照らし合わせ振り返る機会を更に増やしていきながら、理念の実践に結びつくことに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	家族の協力も得ながら地域の祭りに参加したり作品を市の展示会に出展している。中・高生の体験学習の受け入れや病院や通所サービス事業と合同のクリスマス会の行事に地域住人も参加されたり、散歩の際に園芸高校に花を買いに行く事もあり、途中の住人に柿や実った果物を頂く等の関係も自然と作れている。法人代表の院長が地域の寄り合いに参加しており、職員が地域の年1回の掃除にも参加しているが利用者参加には至っていない。	○	地域の中で果たせる役割として駅まで散歩を行う際に、そこにある花壇の草取り等散歩の途中で利用者と共に何か出来る事を探していきながら、地域の一員としての活動機会や役割作りの検討を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目について説明は行わなかったが、職員に記入をしてもらった後皆で話し合いを行った。項目の理解が難しく職員からの積極的な意見は得られなかったが、前回評価の改善課題に関し全員で話し合いを行い、少しずつ取り組んでいる。評価を受ける事で、新たな気付きや行っているケアの振り返りにつながっている。	○	管理者だけでなく職員全員が評価の意義を理解する為に項目についても説明を加え、職員全員の積極的な意見交換が行える体制や質の向上に繋がるような取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催すに向け近隣の施設やケアマネ会議、保険者に相談する等の準備を行っている。現段階では開催方法、内容、メンバー等概ね決定しており、近い時期に開催できる状態になっている。職員の負担を軽減する事も含め、同法人内のグループホームと運営推進会議の合同開催を検討中で市へ相談を行っている。	○	保険者等に相談を行いながら地域へ呼び掛け、気軽にお茶を飲みながら顔見知りになり、ホームを知って頂く事から始めていき、運営推進会議の定例化につなげられる事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新申請時以外に、ホームから市の窓口に向く事はなく、ホームの活動状況や情報提供を継続的に行っているとは言い難い。	○	運営推進会議の呼びかけや推進会議の開催、定期的に市の窓口への訪問しホームの現状報告を行いながら、市の職員との関わりを持つ事で困った事等、相談・支援を頂けるような関係づくりに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の写真を貼り日頃の状況を見て頂き希望があれば写真をお渡したり、家族来訪時に生活・健康状態を報告し、金銭の報告は月1回出納帳を見て頂き行っている。自分で書ける方は写真入りの年賀状を本人に書いて頂き、書く事が困難な方には職員が言葉を書き添え家族や友人に出している。定期受診等で状態変化があればその都度報告し、必要時は医師から説明をして頂いている。職員の離職は特に報告していないが新入職員は家族来訪時に紹介している。	○	写真入りの手紙が好評だったこともあり、まずは手紙を定着させ、今後はホーム便りの作成に繋げていきたいと希望あり、スタッフ会議でも話し合いを行っているとの事で、家族に向けての更なる取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の職員から見えない位置に意見箱を設置し、面会時には「何でも言って欲しい」と頻回に伝えるだけでなく、公共の苦情窓口・第三者委員の設置も契約時に説明し掲示をしている。ご意見を頂いた際に管理者より本人に注意すると共に他の職員にも苦情の内容を伝えたと所、ホーム全体が良くなったと言う事もあり意見の反映を積極的に行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	急な事情の時に職員同士での交代を自由に行っており、休みの希望に極力応じるようにし、相談しやすい雰囲気を作るように努め、個人面談も行い職員より相談を受ける事も多い。異動等は法人内も含め基本的に行わないようにしており、夜間は病院から応援体制も整えられ不安の軽減になっており、親睦を目的とした食事は法人全体で合同で行われている。新任職員には出来る限り1週間程体験的に仕事を頂き、職員と一緒にケアを行いながら説明を行っており入社後も慣れるまでは指導者をつけながら支援を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修参加は日程調整等も含め難しい部分があり、管理者の参加が多くなっている。法人全体での研修会も定期的に行われていたが現在滞っている。グループホーム会議には職員も参加しており事例検討等を行い、接遇に関しても年に1~2回外部より講師を招き行っている。立場や経験に応じた研修計画は作成されていないが、個別の研修に関する構想は管理者自身は持っており資格等の取得については勧めている。	○	職員の立場や能力に応じた研修計画に関して、まずは本人と個々の目標に関して話を行い研修計画を作成していく事で、職員の自己啓発や積極性に繋げて行く事に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護支援事業者連絡協議会のグループホーム部会に昨年より参加しており、管理者が中心に勉強会に参加しカンファレンス時に資料を職員に配布している。他ホームと電話等での情報交換も行っており、職員同士の交流も含めお互いに1日研修等を検討しているが実践には至っていない。	○	管理者が中心の参加に終わらず、お互いのホームでの職員の1日研修や職員同士の交流が実現に向けてや、情報交換や事例検討等を同業者同士で行いながら、共に質の向上につながるよう取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から直接の入居が多く相談時は、管理者がお見舞いに行き顔なじみになる事から始め、本人・家族にも見学に来て頂いている。病院以外からの入居希望者に関しては、事前に見学に来て頂き入居者や職員と一緒に時間を過ごして頂いている。入居の説明は家族・ホーム双方から行い本人の意思を確認しながら行うが、本人の納得が得られないまま止むを得ず入居になった場合は、ホームに慣れるまで家族等に電話をかけたり、できるだけ多く面会に来て頂く等している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お手玉の作り方やキャベツやごぼうの千切りが上手な方もおり、職員が意識して教えて頂く場面を作っている。夜勤時に職員に対し、利用者が「肩をもんでやろう」と言ったり「何かあったら助けるよ」と言葉をかけて頂く事もあり、心強く感じ励まされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活暦・習慣を基に色々な場面を提供したり、ソファで寛いでいる時に側に座りながら、何気ない会話の中から少しずつ聞き取りを行い、新しい気付きについて記録に残したり、申し送り情報共有を行っている。職員からの場面提供は行うが無理強いはず、その時々で状態が変更を行っている。自己表現が難しい利用者に対しては時間をかけて、スキンシップを行いながら安心感を持って頂く事で、次第に意思表示を行って頂けるようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が中心になってケアチェックを行いスタッフ会議で気付きや意見を出し合い計画に反映させている。家族にも希望等を尋ねているが「今のままで結構です」と言われる事が多く、意見の反映はされていない。会議に同法人の階下のグループホーム管理者にも参加してもらい助言を頂いている。「地域で暮らす」「その人らしく暮らす」という視点での課題・目標がない方や、現在行われているケアの内容がすべて盛り込まれている状況ではなく、利用者本位のプランと言う視点になっていない部分もある。	○	日々の暮らしの中でその人が出来る事、出来そうな事等を把握し、介護者の視点での目標ではなく、地域でその人らしく暮らす視点で記載し、日々行われているケアの内容をすべて計画に盛り込む事で、利用者個々の具体的な計画となりケアの統一にもつなげられるよう期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調や要望等ある方については月1回のカンファレンスで見直しを行い、特に変化が見られない方についても毎月検討を行い、変化が見られない時には6ヶ月毎の設定した時期に見直しを行っている。家族に面談を行い希望を聞いているが「今のままでいい」と言われる事が多く新たな気付きになる事が少ない。	○	管理者がアセスメントの方法を他施設より情報を得ながら検討している状況で、変化を細かく捉え予測される変化に柔軟に対応できるよう今後アセスメント方法も合わせて充実を図り、臨機応変な計画見直しにつながる事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院であり24時間いつでも医師と内線でつながる状態にあり、朝・夕2回の往診があり安心感につながっている。通院介助、美容院への移送等希望に応じた対応や、散歩の途中で地域の方の自宅や友人の家に立ち寄りたりする事もある。家族へはお正月やお盆に外出等の呼びかけを行っており、時間調整や外出・外泊の準備も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	古くからの病院であり殆どの利用者は母体病院が主治医で、病院があるから入居しかかりつけ医を変更される方が多いが、専門医療に関しては今までの病院を継続しており受診時は職員が付き添い、専門医等少し遠方の病院には管理者が受診介助を行っており、必要に応じ家族や病院の看護師にお願いする事もある。職員は全てのかかりつけ医にいつでも相談が出来る状態にあり、受診後の家族への報告は変化があればその都度行い、なければ来訪時に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時や終末期にどう対応するかについて、家族にお話しているが、母体が病院である為に最期は病院で診てもらえるから安心と思っている家族が多く、対応できる範囲内はホームで看る事は可能であり、入院が必要になって来た時には病院に移る事を家族にも説明を了し承を得ており、どの時点で入院するのかはその都度検討を行っていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣い等気になる時は管理者、主任を中心に職員同士でもお互い注意を行っている。家族にお話し利用者によっては反応のよい名前前で呼ぶ事もあり、利用者が慣れ親しんだ方言で話す事もあるが、常に意識の中では目上の方に対する尊敬の念を持って対応を行っている。個人情報の記録についても第三者に漏らす事はなく、書類等の処分時はシュレッダーにかけ注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、強要はせずその日の気分や体調を確認しながら柔軟に対応を行っている。その日の洋服を選んでもらう事から始まり、散歩、買い物、レクリエーション等すべてその都度希望を確認しながら行っている。広間で会話をしたり、テレビを見たり、1人で居室で本を読んだり等、利用者が思い思いのペースで生活を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配を利用しているが近くに100円で売っている野菜の露店があり、散歩の途中で利用者と買い物旬の野菜があった場合は献立と一緒に考えメニューを変更している。調理の下ごしらえ、調理、味見や盛り付け・配膳、食事後の下膳や食器の後片付け、テーブル拭き等、利用者の能力に応じそれぞれが作業を行っている。外食や出前も年1～2回程度行ったり、ケーキを切って食べたりして喜ばれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間と回数を概ね決めて入浴の希望に柔軟に対応している。異性の入浴介助を嫌がられる時は同姓介助にし羞恥心に配慮している。車椅子の方も職員2名で安心感が持てるような声かけを行いながら、ゆったりした気持ちで入浴ができるよう支援している。急に入浴に誘うと嫌がられる方には「散歩に行こう」と声をかけ、自然に浴室へ誘導するとスムーズに入浴をされる等、利用者に合わせた誘導を行っている。時には入浴剤を使用して香りを楽しむ事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者毎の生活歴や趣味・習慣を事前に情報収集し、個々の役割や楽しみ事を把握した上で最初は職員が誘ったり、それを活かせる場面作りを行っている。其々の能力に応じ調理や下ごしらえ、食器の後片付けやテーブル拭き、貼り絵やカラオケ、縫い物等を思い思いにして頂いている。決まった時間に花に水を遣ったり、草取りをする方がおられ職員も一緒に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りに花壇があり季節毎の花植えや水遣り、草取り等の作業を利用者と毎日行ったり、市内のドライブや作品展示会の見学等、天気の良い日は戸外に出る機会も積極的に作っている。隣接の通所サービスに遊びに行ったり地域の祭りや敬老会、正月は近くに初詣にも出かけている。少し離れた島から入居された方がおられ馴染みの場所への外出は困難な方もいるが、地域への外出や郷土のお祭りには行かれている。	○	島からの入居の方もおられ馴染みの場所への外出は困難な状況あるが、利用者の希望を叶えたいと言う気持ちが強く、実現させる為に必要な物品や手段・方法を具体的に考え、家族も含め少しずつ環境を整え実現に繋がれる事に期待している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階の裏階段の入り口には危険防止の為、家族に同意を頂き施錠を行っているが、玄関は夜間戸締まりの19:00～8:30以外は出入りが自由出来る状態である。職員は仕事の立つ位置に注意しながら、ドアが開く音がした時は制止をするのではなく、後ろからさりげなくついて行き見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	病院やデイケアと合同で年2回非難訓練を行い、内1回は消防署に協力を得ている。夜間を想定し職員が自宅からどれくらいで駆けつけられるか、実際に即した状況で行う事もある。また防災設備会社から火災報知装置や消火器の使用説明・指導を受けている。地域住民の連絡網を作成し緊急時の協体制も整えており、病院と共同であるが備蓄も備え付けている。	○	夜間の災害に対応できるのか不安があり、今後地域の住人にも協力を得ながら、連携をとりながら混乱なく対応できるよう避難訓練に参加して頂き、迅速に対応できる体制を確立させることに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに合わせ盛り付け方を変えたり、食材を変えたり希望に柔軟な対応をしている。3時のおやつに牛乳を出しているが飲めない方には別の物で対応したり、コーヒー・紅茶等希望に合わせて選べるようになっており、毎日の食事摂取量や飲水量も記録している。定期的な体重測定や血液検査を基に必要時に医師から助言を得るだけでなく、提供した献立表を年1回病院の管理栄養士からチェックを受け助言を頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目を基調とした内部の至る所に季節の花を飾り、暖色系の家具で統一し温かさが感じられる雰囲気作りを行っている。食卓のテーブル以外ソファも設置され空間が広いこともあるが、利用者が思い思いの場所で寛いでいたり、テレビをみたり、居室で過ごしたりしている。気になる音や匂いも感じられず適度な光もあり過ごし易い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備えつけのベッドとクローゼット以外は持ち込み自由で、位牌や椅子、テレビ等それぞれの馴染みの物を持ち込まれ、利用者個々の空間になっている。居室の天井灯のスイッチ紐が届かない利用者に対し、紐を長めにする事で自分で電気の操作が行えるように対応され、個人を尊重しながら過ごしやすい生活空間を作り上げている。		